



今年度はコロナ禍により、様々な活動、行事ができません。年長児にとって残念な年になりそうですが、その中でも「やれることはしっかりやる」という考えでいます。10月10日に予定していた岩根中学校グラウンドでの運動会は雨のために中止となり、工事のために狭くなった園庭で工夫しながら行いました。保護者の皆様には、平日にもかかわらず参観いただき、感謝申し上げます。皆さんが見ていただいているおかげで普段以上に頑張る姿がたくさん見られました。今年の運動会は3歳以上の参加としましたが、ふだんの練習や保育園で行った運動会を見ていた3歳未満の子どもたちも運動会を楽しんでいたようです。その様子を保護者の皆さんにお伝えします。

<ちゅうりっぷ組>

運動会の練習の時からハンカチを使ってパラバルーンごっこをしていたが、今日も朱音とまりんで楽しそうにやっていた。大きめのハンカチを2人で持ち、振ったりかぶったり中に入るとかぶったりするのを「パプリカ」を歌いながらやっている。まりんは「1, 2, 3, 4, 5, 6入って!」と言ったり、メーゴーランドの手を横にピンと伸ばすことをやったりしている。また、最後に中に入って待ち、呼名されて出てくることも再現しようとしている。朱音と二人でハンカチをかぶった状態で「あかねちゃん」「まりんちゃん」名前を呼び、「あかね。出て」と指示している。園では聞いたことがないが、家では「年長児27人、ありが…ごました!」と言っているようで、イメージがしっかり持っていて再現しようとしていることに感心してしまう。

<たんぼぼ組>

園庭に出る前、子どもたちに「今日で運動会が終わりであり、体操や歌を歌うことも最後だ」と伝えた。「最後だから頑張ろう」と言うと、「頑張る」という返事が返ってきた。結羽は、やはり保護者の存在に緊張して立ちすくんでいた。目が合い手をぎゅっとなぐとにつこり笑った。すぐ近くにいた真優愛の隣に行くと、体操をやり始めた結羽だった。「応援席に戻ります」の掛け声に対して、体の向きを変え、音楽がかかると足踏みを始める子どもたちであった。部屋に戻ると窓際に行く子が多いので台を用意した。リレーを見て「がんばれ」と声援を送る子どもたちの姿も見られた。2階からパラバルーンの演技を見るのは初めてだった。パラバルーンで流れる曲はよく知っているの、歌詞を口ずさむ子が多く、龍星も「すごい」と風船のようにパラバルーンが膨らむところを見て感動していた。パラバルーンの演技を見終わると、数人の女兒が布を持ち、「1, 2, 3, 4」と掛け声をかけて布の中に潜り込もうとしていた。例年とは違う運動会であったが、練習を通して子どもたちは楽しみながら参加して、以上児に対する憧れの気持ちも芽生えていたと思う。

運動会に至るまでの過程で子どもたち一人一人は様々な学びをします。今回の運動会の主体者である3歳以上の子どもたちだけでなく、ふだんの練習や3日間にわたる運動会を通して3歳未満の子どもたちも様々な学びをしていることがこの記録を通してわかりました。たんぼぼ組の子どもたちは、来年は間違いなく運動会の主体者になります。今年の「見て学ぶ」「まねて学ぶ」という経験が来年の運動会に生かされるでしょう。私たちは「運動会を境にして子どもは飛躍的に育つ」という経験知を持っています。飛躍的に育つ機会であるからこそ、どんな形でも運動会はやりたかったのです。ご協力ありがとうございます。 園長 平野弘和